

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of :  
Yoshiyuki SHIWAKU et al. :  
Serial No. NEW : Attn: APPLICATION BRANCH  
Filed August 29, 2001 : Attorney Docket No. 2001\_1053A  
INFORMATION TERMINAL

J1036 U.S. PTO  
09/940632  
08/29/01

# 5  
A. Hay  
4/22/02

CLAIM OF PRIORITY UNDER 35 USC 119

Assistant Commissioner for Patents,  
Washington, DC 20231

Sir:

Applicants in the above-entitled application hereby claim the date of priority under the International Convention of Japanese Patent Application No. 2001-160302, filed May 29, 2001, as acknowledged in the Declaration of this application.

A certified copy of said Japanese Patent Application is submitted herewith.

Respectfully submitted,

Yoshiyuki SHIWAKU et al.

By Charles R. Watts  
Charles R. Watts  
Registration No. 33,142  
Attorney for Applicants

CRW/asd  
Washington, D.C. 20006-1021  
Telephone (202) 721-8200  
Facsimile (202) 721-8250  
August 29, 2001

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

J1036 U.S. PTO  
09/940632  
08/26/02

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 5月29日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-160302

出 願 人

Applicant(s):

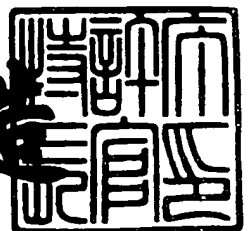
松下電器産業株式会社

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2001年 6月19日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



【書類名】 特許願

【整理番号】 2122020077

【提出日】 平成13年 5月29日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 1/16

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 塩飽 誉之

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 森 猛

【特許出願人】

【識別番号】 000005821

【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100097445

【弁理士】

【氏名又は名称】 岩橋 文雄

【選任した代理人】

【識別番号】 100103355

【弁理士】

【氏名又は名称】 坂口 智康

【選任した代理人】

【識別番号】 100109667

【弁理士】

【氏名又は名称】 内藤 浩樹

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011305

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9809938

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報端末

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 情報端末を収容する筐体と、

前記筐体に設け鍵によって鎖錠状態と解錠状態との間を推移する鎖錠装置と、

前記筐体において少なくとも内蔵する情報端末に用いる着脱可能なメモリ装置を収容する部分を覆う蓋と、

前記鎖錠装置と連動して前記鎖錠装置の鎖錠状態において前記蓋を解放不可に鎖錠し解錠状態において前記蓋を解放可能にする鎖錠連動機構とを備えた情報端末。

【請求項 2】 情報端末への電源供給または切断を可能にする電源スイッチ手段と、前記鎖錠装置の鎖錠状態において前記電源スイッチ手段の動作を阻止する電源鎖錠手段とをさらに備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の情報端末。

【請求項 3】 前記鎖錠連動機構は前記鎖錠装置が解錠状態から鎖錠状態に推移するときに前記蓋を直接に鎖錠することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の情報端末。

【請求項 4】 手動により前記蓋を鎖錠し解錠する蓋鎖錠装置をさらに備え、前記鎖錠連動機構は前記鎖錠装置の鎖錠状態において前記蓋鎖錠装置を手動では解錠できないように鎖錠することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の情報端末。

【請求項 5】 外部と通信する無線機能を備え、

前記着脱可能なメモリ装置は前記無線機能に用いる S I M カードであることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 に記載の情報端末。

【請求項 6】 前記電源スイッチ手段は操作ごとに情報端末への電源供給と切断とを順次繰り返す構成であり、

前記鎖錠装置は電源スイッチ手段による情報端末への電源供給状態を保持したまま鎖錠状態へ推移できることを特徴とする請求項 2 ～ 5 のいずれか 1 に記載の情報端末。

【発明の詳細な説明】

## 【 0 0 0 1 】

## 【発明の属する技術分野】

本発明は携帯電話機などの無線機能を内蔵した、パーソナルコンピュータなどの情報端末に関し、特に無線機能に用いるＩＣメモリ装置などの盗難防止策を強化したものに関する。

## 【 0 0 0 2 】

## 【従来の技術】

近年、ノート型パーソナルコンピュータ（以下ノート型パソコン）などの情報端末に携帯電話機などの無線機能を内蔵し、外部との情報のやりとりを行うことが一般的となっている。携帯電話機において、日本を除く、欧州、アジア、北米など、広く海外で普及している携帯電話の方式のひとつにＧＳＭ（Global Special for Mobile）方式がある。この方式の特徴として、ＳＩＭカード（Subscriber Identity Module）を使って携帯電話端末と事業者とを分離することがあげられる。これは、ユーザーが携帯電話機を購入する際に、まず携帯電話機（端末）を選び、その端末で使用する事業者として、ユーザーが任意の会社を選び、組み合わせて利用する。

## 【 0 0 0 3 】

この際、事業者各社はＳＩＭカードと呼ばれる、加入権情報（電話番号）を書き込んだＩＣカードを販売し、ユーザーは任意の事業者と契約の上、ＳＩＭカードを受け取り、このカードを携帯電話端末に装着すれば、すぐに使用が可能となる。違う端末を利用する場合はＳＩＭカードを自分で差し替えれば同じ電話番号のまま、別の端末を利用できる。または、別の事業者のＳＩＭカードを持っていれば、１台の端末で複数の事業者を使い分けることも可能となる。

## 【 0 0 0 4 】

## 【発明が解決しようとする課題】

このようにＳＩＭカードは電話の加入の権利を示すものであるから、カードが盗難に遭えば悪用されることとなる。そこで盗難防止の観点からは、機器内部にＳＩＭカードを取り付けておけば盗難に遭いにくい。しかしながら上述のように端末に複数のＳＩＭカードから選んで挿入したり、またそれを取り出して他の端

末に挿入して用いる、という利用形態からすると、盗難を防止することも大切であるが、一方機器に取り付け易く、また取り外し易くしたい、という要請も高い。

【 0 0 0 5 】

本発明は上記の課題を解決するためのもので、SIMカードを容易に取り付け、取り外し易くし、かつ盗難防止の対策も施した情報端末を提供しようとするものである。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために本発明の請求項1の情報端末は、情報端末を収容する筐体と、前記筐体に設け鍵によって鎖錠状態と解錠状態との間を推移する鎖錠装置と、前記筐体において少なくとも内蔵する情報端末に用いるメモリ装置を収容する部分を覆う蓋と、前記鎖錠装置と連動して前記鎖錠装置の鎖錠状態において前記蓋を解放不可に鎖錠し解錠状態において前記蓋を解放可能にする鎖錠連動機構とを備えたものである。

【 0 0 0 7 】

この構成によって鎖錠機構を鍵によって鎖錠すれば、蓋を開くことはできなくなり、内部に取り付けたメモリ装置が盗難に遭うことを防止することができるよう作用する。

【 0 0 0 8 】

本発明の請求項2の情報端末は、請求項1の構成において情報端末への電源供給を可能にする電源スイッチ手段と、前記鎖錠装置の鎖錠状態において前記電源スイッチ手段の動作を阻止する電源鎖錠手段とをさらに備えたことを特徴とするものである。

【 0 0 0 9 】

この構成によって鎖錠機構を鍵によって鎖錠すれば、蓋を開くことはできなくなり、内部に取り付けたメモリ装置が盗難に遭うことを防止するとともに、電源スイッチが入れられないので、携帯用端末を操作することができなくなり、無断で通信手段が利用されたり、データが改ざんされたり窃用されたりできないよう

に作用する。

【 0 0 1 0 】

本発明の請求項 3 の情報端末は、請求項 1 または 2 の構成において、前記鎖錠連動機構は前記鎖錠装置が解錠状態から鎖錠状態に推移するときに前記蓋を直接に鎖錠することを特徴とするものである。

【 0 0 1 1 】

また請求項 4 の情報端末は同じく請求項 1 または 2 の構成において、手動により前記蓋を鎖錠し解錠する蓋鎖錠装置をさらに備え、前記鎖錠連動機構は前記鎖錠装置の鎖錠状態において前記蓋鎖錠装置を手動では解錠できないように鎖錠することを特徴とするものである。これら請求項 3, 4 の構成は請求項 1 または 2 の構成をさらに具体的に示したものである。

【 0 0 1 2 】

また本発明の請求項 5 の情報端末は、請求項 1 ～ 4 のいずれかの構成において外部と通信する無線機能を備え、前記着脱可能なメモリ装置は前記無線機能に用いる SIM カードであることを特徴とするものである。

【 0 0 1 3 】

この構成によって、無線機能を用いて外部と通信ができ、その際に無線通信に必要な SIM カードを鎖錠装置によって盗難から守ることができるように作用する。

【 0 0 1 4 】

さらに本発明の請求項 6 の情報端末は、請求項 2 ～ 5 の構成において、前記電源スイッチ手段は操作ごとに情報端末への電源供給と切断とを順次繰り返す構成であり、前記鎖錠装置は電源スイッチ手段による情報端末への電源供給状態を保持したまま鎖錠状態へ推移できることを特徴とするものである。

【 0 0 1 5 】

この構成によって、電源を入れたまま鎖錠できるので、動作中に故意にまたは誤って電源が切断されて入力作業中のデータが破壊されたり消失したりすることを防ぐように作用する。

【 0 0 1 6 】



## 【発明の実施の形態】

## (実施の形態 1)

以下、図面に基づいて本発明の実施の形態 1 の情報端末について、ノート型パソコンを例に用いて説明する。図 1 は実施の形態 1 における情報端末を底面から見た斜視図、図 2 は同じくその図 1 における要部拡大分解斜視図、図 3 は同じくその図 2 の部分を反対側から見た要部拡大斜視図である。

## 【0017】

図 1 において筐体本体部 1 には通常液晶表示部を内面に配置し、図示しない蝶番部によって図の下方に開く蓋体部 3 が取り付けられている。筐体本体部 1 の手前側面中央には携帯用のハンドル 7 が取り付けられている。底面の手前には底蓋 5 がスライドロック金具 9, 11 によってロックされている。ハンドル 7 の左方には鍵 12 によって鎖錠する鎖錠装置であるシリンダ錠部 13 が配置されている。通常はスライドロック金具 9 は手動で左方に、スライドロック金具 11 は手動で右方へそれぞれスライドして底蓋 5 を解放することができる。

## 【0018】

図 2 において筐体本体部 1 の底面側に第 1 の切欠凹部 15 があり、その略中央から側壁を直角に貫通して回動係止軸 17 が回動自在に突出しており、その手前先端の係止部 19 は図の状態では水平方向に延びた形状となっている。そして回動係止軸 17 の係止部 19 との反対側（筐体本体部 1 の内部側）にはピン孔 21 を持つレバー部 23 が形成されている。

## 【0019】

第 1 の切欠凹部 15 には、切欠部 25 と、ビス孔 27 と、回動係止軸 17 を貫通させる丸孔 29 とを有するガイド板 31 が、ビス孔 27 を通したビス 33 で第 1 の切欠凹部 15 の孔 35 にねじ止め固定されるようになっている。このガイド板 31 を上下方向に切った断面は第 1 の切欠凹部 15 に接する面が狭くなった逆凸字形となっており、すなわち図の手前側の平行する上下の端面はガイドレール 37, 39 となっている。

## 【0020】

ガイド板 31 には、第 1 の切欠凹部 15 への取り付けに先だってスライドロッ

ク金具 9 を右方より矢印 A 方向に挿嵌させる。スライドロック金具 9 には、ガイドレール 3 7, 3 9 と嵌合するように上下に横方向に係止部 4 1, ガイド部 4 3 が延びており、ガイド板 3 1 に挿嵌して左右に摺動自在に移動可能となる。

【 0 0 2 1 】

スライドロック金具 9 を裏側から見たものを符号 9 R で示す。内側には溝 4 5 が長さ方向に延びており、途中で円形に拡張されたロック部 4 7 を有する。この溝 1 5 には回動係止軸 1 7 の係止部 1 9 が入り込み、係止部 1 9 がロック部 4 7 の中央において図の状態より 9 0 度回動したとき、係止部 1 7 は上下方向に長くなり、スライドロック金具 9 ( 9 R ) の左右方向の動きに係止する。

【 0 0 2 2 】

つぎに図 2 と図 3 において、シリンダ錠部 1 3 には鍵穴 4 9 があり、鍵 1 2 を挿入して矢印 B 方向に 9 0 度回動させると鍵穴 4 9 と連動して軸 5 1 が回動し、軸 5 1 と一体に形成されたカム板 5 3 も回動して鎖錠状態となる。カム板 5 3 は電源鎖錠手段を兼ねている。鍵 1 2 は解錠状態と鎖錠状態とでは鍵穴 4 9 から抜き取れるようにしておくのが操作上好ましい。

【 0 0 2 3 】

電源レバー 5 5 は軸 5 1 と同軸に矢印 C 方向に 3 0 ~ 4 5 度程度回動できる構成となっており、電源レバー 5 5 が回動するとそれに一体に形成された延長レバー 5 7 も回動して電源スイッチ 5 9 のアクチュエータ 6 1 を上方へ押圧して電源スイッチ 5 9 をオンにするが、この回動はカム板 5 3 の位置により制約される。

【 0 0 2 4 】

ここでは、電源スイッチ 5 9 のアクチュエータ 6 1 を上方に押圧することにより電源スイッチがオンになるとして説明したが、ATX 規格のパソコンにおいては、最初にアクチュエータ 6 1 が図の上方に押圧されることにより電源がオンにされ、つぎにアクチュエータ 6 1 が上方に押圧されることにより、電源がオフにされるように動作する。すなわち電源スイッチ 5 9 は、電源に関して操作時の現在の端末の状態を異なった状態に順次推移するように作用することができる。

【 0 0 2 5 】

電源レバー 5 5、延長レバー 5 7、電源スイッチ 5 9、およびそのアクチュエ

ータ 6 1 および図示しないが、アクチュエータ 6 1 の操作ごとに電源に関して操作時の現在の端末の状態を異なった状態に順次推移するように動作する回路構成をも含むものを電源スイッチ手段と総称する。カム板 5 3 と回動係止軸 1 7 のレバー部 2 3 とは連結ロッド板 6 3 がピン 6 5, 6 7 で連結され、カム板 5 3 の矢印 B 方向への 9 0 度の回動に応じて連結ロッド板 6 3 により回動係止軸 1 7 が矢印 D 方向へ 9 0 度回動されるように構成されている。回動係止軸 1 7、連動ロッド板 6 3 等を総称して鎖錠連動機構とする。

## 【 0 0 2 6 】

また底蓋 5 の端部には被係止部 6 9 が L 字状に下方に突き出しており、この被係止部 6 9 は第 1 の切欠凹部 1 5 内でさらに図のように形成された第 2 の切欠凹部 7 1 に嵌入してスライドロック金具 9 の係止部 4 1 によって係止されるようになっている。スライドロック金具 9, 1 1、ガイド板 3 1、被係止部 6 9 を総称して蓋鎖錠装置とする。底蓋 5 の被係止部 6 9 の付いている端面に対して対向する辺の端面は通常よく用いられるように差し込み等で係止してもよくまた筐体本体部 1 と蝶番等で固着していてもよい。

## 【 0 0 2 7 】

筐体本体部 1 の内部 7 3 にはカードソケット 7 5 が配置され、メモリ装置である S I M カード 7 7 が装着されている。

## 【 0 0 2 8 】

このように構成され、つぎにその動作を説明する。底蓋 5 を開き、内部 7 3 のカードソケット 7 5 に S I M カード 7 7 を装着し、または取り外す。底蓋 5 を閉じ、スライドロック金具 9 を矢印 A 方向に手動でスライドさせて係止部 4 1 で被係止部 6 9 を係止し、スライドロック金具 1 1 についても同様な操作を行い、底蓋 5 を固定する。

## 【 0 0 2 9 】

ついで鍵穴 4 9 に鍵 1 2 を挿入して矢印 B 方向に止まるまで 9 0 度回動させるとシリンダ錠部 1 3 は鎖錠され、軸 5 1 と一体に連動するカム板 5 3 も矢印 B 方向へ 9 0 度回動され、一点鎖線の状態となり、延長レバー 5 7 は矢印 C 方向へは動けなくなり、したがってこれに連動する電源レバー 5 5 も操作できなくなり、

電源スイッチ 5 9 のアクチュエータ 6 1 を上方へ動かしてオンにすることはできない。そのため、第三者が、この端末を操作して無断で無線手段を利用したり、データを改ざんしたり窃用したりすることがない。

## 【 0 0 3 0 】

また同時にカム板 5 3 の回動によって連結ロッド板 6 3 を介して回動係止軸 1 7 も矢印 D 方向に 9 0 度回動され、これにより係止部 1 9 は溝 4 5 のロック部 4 7 内で上下方向に長くなる位置となり、スライドロック金具 9 の左右方向への摺動を不可能にするので、被係止部 6 9 は係止部 4 1 に係止されたままとなり底蓋 5 を開いて、中のメモリを盗んだりできなくなる。これが鎖錠状態であり、この状態で、鍵 1 2 をシリンダ錠部 1 3 から抜き去れば、鍵を持たないものは情報端末を操作することができず、また裏蓋を開けることもできない。

## 【 0 0 3 1 】

解錠状態にするには、鍵穴 4 9 に鍵 1 2 を挿入して矢印 C 方向に止まるまで 9 0 度回動させるとシリンダ錠部 1 3 は解錠され、その他の部分もそれぞれ上記と逆の動作を行って、電源レバー 5 5 は回動可能となり電源スイッチ 5 9 をオンにでき、またスライドロック金具 9 はスライドが可能となり、底蓋 5 を開くことができる。

## 【 0 0 3 2 】

つぎに、特殊な使い方として、鍵 1 2 を挿入して矢印 C 方向へ回動してシリンダ錠部 1 3 をいったん解錠状態とした後、電源レバー 5 5 を矢印 C 方向に回動させて、延長レバー 5 7 で電源スイッチ 5 9 のアクチュエータ 6 1 を押圧して情報端末であるノートパソコンの電源をオンにした後、鍵 1 2 を矢印 B 方向に回動させ、シリンダ錠部 1 3 を鎖錠状態として鍵 1 2 を引き抜くことができる。するとノートパソコンは電源オン状態のままで、電源レバー 5 5 を再度矢印 C 方向へ回動させることができず、電源をオフにすることができない。A T X 規格のパソコンにおいては電源オン状態で再度電源スイッチを操作すればオフ状態となるため、故意に、または誤って電源レバー 2 2 により電源オフ操作をすることによって、入力中のデータが破壊されたり、消失するのを防ぐことができる。これは不特定多数の人が出入りするところや展示会などで、誤った操作による損失を防ぐた

めに有効な機能である。

【 0 0 3 3 】

本実施形態では底蓋 5 内には S I M カードを収容する例を図示したが、それ以外にもハードディスク装置、電池、無線回路基板、C P U など収容することができる。

【 0 0 3 4 】

以上のように本実施形態においては、鎖錠装置であるシリンダ錠部を鎖錠状態に操作することによって電源スイッチのオン・オフ操作を不可能にし、また底蓋の解放も不可能にし、第三者による情報端末の操作をできないようにし、かつ底蓋内に収容した S I M カード等の重要部品を盗難から保護することができる。また電源オン状態のまま鎖錠状態にでき、鍵を持たない第三者による電源オフ操作も防ぐことができる。端末そのものの盗難防止については、ここでは説明していないが、筐体本体部に設けた図示しない係止部を机などにワイヤー等で係止しておくものとする。

【 0 0 3 5 】

(実施の形態 2)

以下図 4 に基づいて本発明の実施の形態 2 の情報端末について、ノート型パソコンを例に用いて説明する。実施の形態 2 における情報端末を底面から見た斜視図の図 4 において実施の形態 1 と同じ機能の部分については同じ符号を付けて説明を簡略にする。シリンダ錠部 1 3 の軸 5 1 と一体に形成されたカム板 5 3 にはロックレバー 7 9 がピン 6 5 によって連結され、ガイド機構を簡単のために省略しているが鍵穴 4 9 に挿入した鍵により図示の位置から矢印 E 方向に図 2 とは逆方向に 9 0 度回動することで鎖錠状態となり、ロックレバー 7 9 が矢印 G 方向に突出し、一点鎖線の状態となって底蓋 5 a に設けた被ロック部 8 1 内に挿入して底蓋 5 a を係止するものとする。ロックレバー 7 9 はここでは鎖錠連動機構として働く。なお説明の便宜上この状態で電源レバー 5 5 は回動できず、電源スイッチもオンにできないように各部が構成されているものとする。

【 0 0 3 6 】

解錠時にはこの状態から鍵穴 4 9 に挿入した鍵を矢印 F 方向に 9 0 度回動させ

ることによって図4の状態にすれば、ロックレバー79が矢印H方向へ引き込み、底蓋5aを取り外せるようになるとともに、電源レバー55も回動可能になる。

## 【0037】

実施の形態1との差異は、実施の形態1においては、底蓋5を固定または解放可能にするスライドロック金具9を摺動不可能にすることによって間接的に底蓋5を鎖錠しようとするものであったが、本実施形態においては、底蓋5aそのものを直接鎖錠するようにした点が異なっている。

## 【0038】

なお、以上各実施の形態における例示は一例であり、実施形態を構成する構成要素は公知のものも含めて同様の機能を果たすもので置き換え可能である。たとえば各実施形態における鎖錠装置は、機械的な鍵で操作するものを示したが、たとえば鍵は暗証番号であり、電子的に、たとえばテンキーなどで暗証番号を打ち込んで、番号が合致すれば電磁力で解錠するものであってもよい。

## 【0039】

また具体的な数値は一例であり、それに限定されない。たとえば鍵を90度回動する等についても90度に限るものではない。

## 【0040】

また、上記各実施の形態では、通信方式はGSM方式で、SIMカードを使用するものとして説明したが、使用する無線通信方式はこれに限られるものではなく、また同様なIDカードであって、盗難が被害をもたらすものにはすべて適用することができる。説明ではメモリ装置としたが、単にデータを記憶するだけではなく、プログラムと演算部を内蔵して記憶したデータに対して演算し得るものも含まれる。

## 【0041】

さらに上記各実施の形態ではノート型パソコンを例にあげたが、ノート型パソコンに限定されず、無線機能内蔵のデスクトップ型パソコンや、同様の目的で用いられる無線機能内蔵の情報端末、たとえば一般にPersonal Digital Assistant (PDA) とよばれる小型情報端末にもすべて適

用されるものである。

【 0 0 4 2 】

【発明の効果】

以上説明したように本発明の情報端末によれば、鎖錠装置を鎖錠状態に操作することによって底蓋の解放を不可能にし、底蓋内に収容した少なくともSIMカード等の情報を内蔵したカード、さらにはハードディスク、電池、無線回路基板等の重要部品を盗難から保護することができる。

【 0 0 4 3 】

また鎖錠状態への操作に連動して電源スイッチのオン操作、オン状態からのオフ状態への推移を不可能にし、第三者による情報端末の操作やデータの破壊消失ができないようにし得るという有利な効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態 1 における情報端末を底面から見た斜視図

【図 2】

同じくその図 1 における要部拡大分解斜視図

【図 3】

同じくその図 2 の部分を図 2 とは反対側から見た要部拡大斜視図

【図 4】

本発明の実施の形態 2 における情報端末を底面から見た斜視図

【符号の説明】

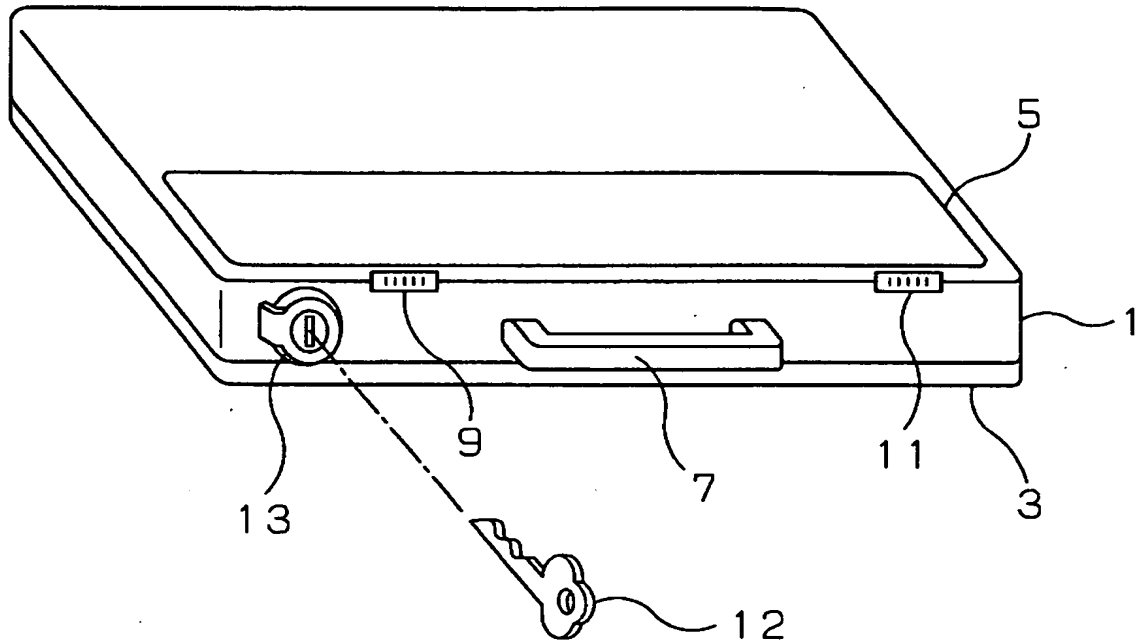
- 1, 1 a 筐体本体部
- 3 蓋体部
- 5, 5 a 底蓋
- 7 ハンドル
- 9, 1 1 スライドロック金具
- 1 2 鍵
- 1 3 シリンダ錠部
- 1 7 回動係止軸

- 1 9 係止部
- 2 3 レバー部
- 3 1 ガイド板
- 3 7, 3 9 ガイドレール
- 4 1 係止部
- 4 5 溝
- 4 7 ロック部
- 4 9 鍵穴
- 5 3 カム板
- 5 5 電源レバー
- 5 7 延長レバー
- 5 9 電源スイッチ
- 6 1 アクチュエータ
- 6 3 連結ロッド板
- 6 9 被係止部
- 7 3 筐体本体部 1 の内部
- 7 5 カードソケット
- 7 7 S I Mカード
- 7 9 ロックレバー
- 8 1 被ロック部

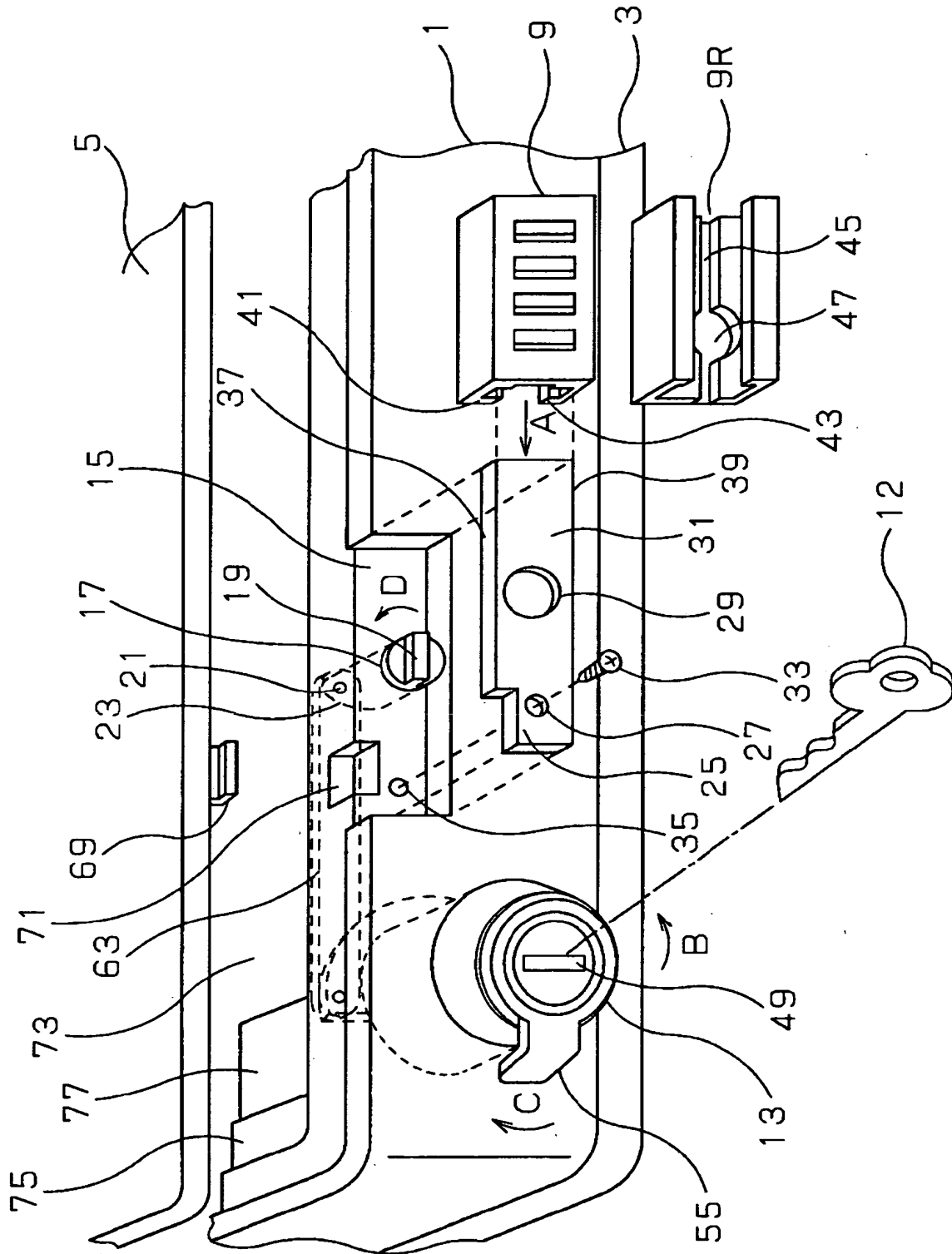


【書類名】 図面

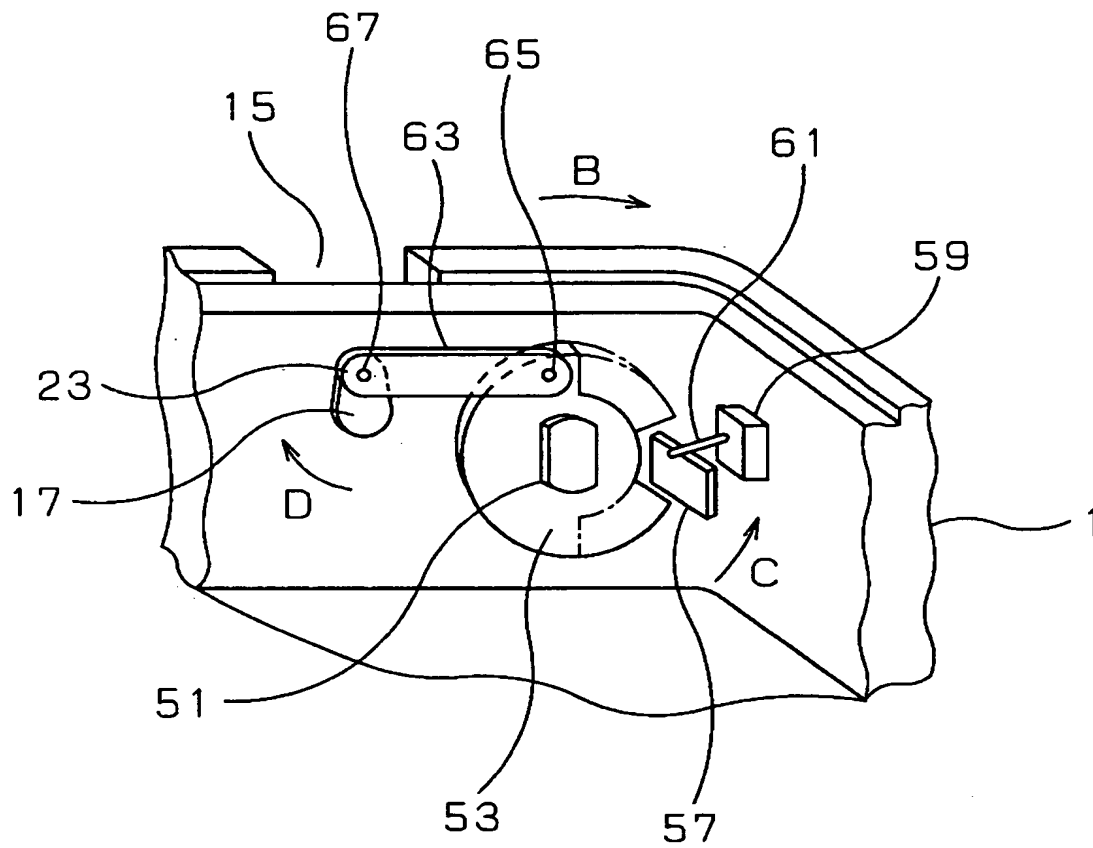
【図 1】



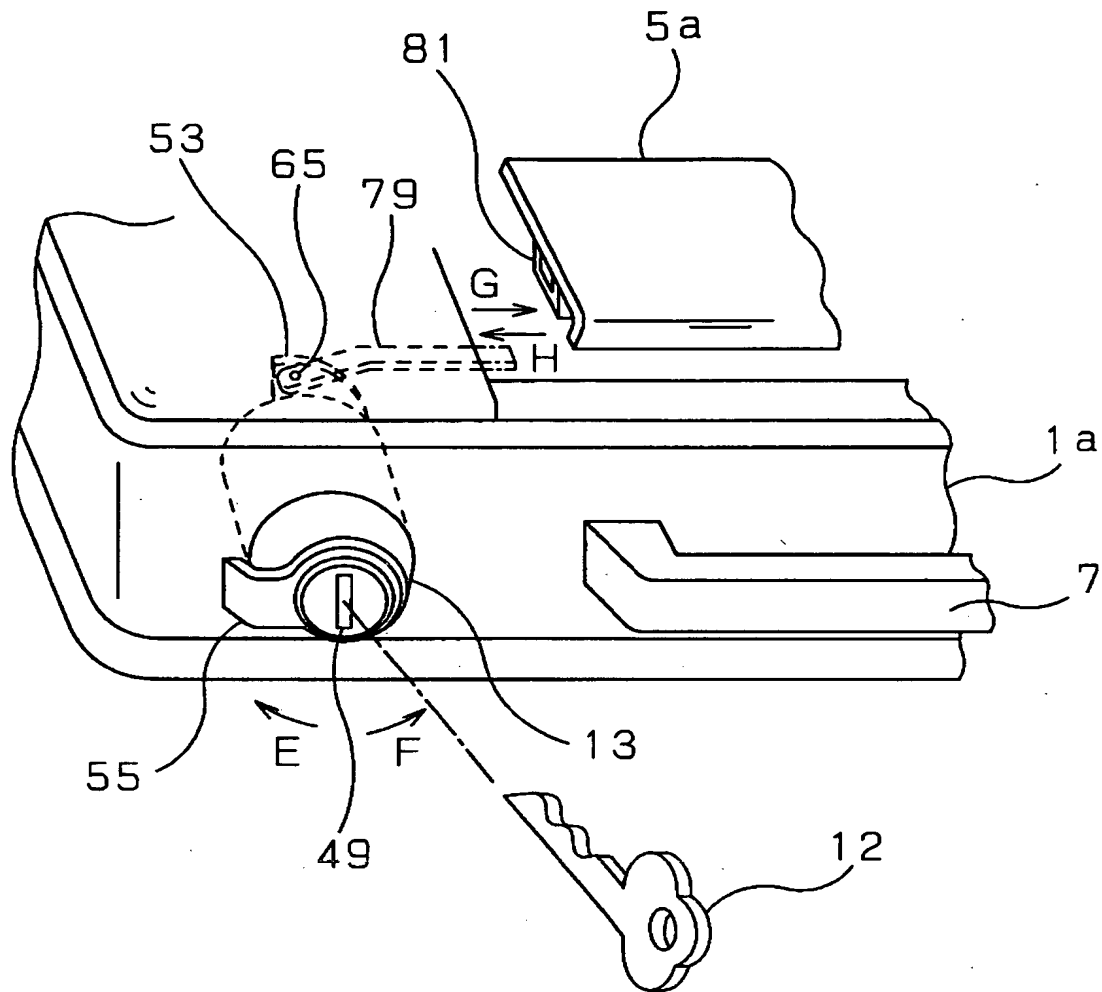
【図2】



【図3】



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 情報端末において内蔵する重要部品の盗難を防止し、また第三者に任意に電源操作をされることを防ぐ手段を提案する。

【解決手段】 シリンダ錠部 1 3 の鍵穴 4 9 に鍵 1 2 を差し込んで矢印 B 方向に 9 0 度回動させると、カム板が回動して連結ロッド板 6 3 を介して回動係止軸 1 7 のレバー部 2 3 が回動され係止部 1 9 がスライドロック金具 9 の裏側の溝 4 5 のロック部 4 7 中で 9 0 度回動される結果、スライドロック金具 9 のスライドを不可能にし、係止部 4 1 で被係止部 6 9 を係止したままとなるので裏蓋 5 を開けないため S I M カード 7 7 の盗難を防ぎ、同時にカム板は電源レバー 5 5 もロックして電源スイッチをオンにできなくする。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005821]

1. 変更年月日 1990年 8月28日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府門真市大字門真1006番地  
氏 名 松下電器産業株式会社